



カンボジアの子どもたちに教科書を

2017年7月 No. 61

カンボジア便り

丸山 芳彦

～目次～

カンボジア便り	1～3
ボランティアさんの感想	4～7
事務・会計報告	8

ニュースレター60号では、カンボジアでの我々の活動を1人で支えて頂いている、リ

ティさんの生い立ちから我々との出会い、アジア未来学校の開設までを紹介いたしました。日韓アジア基金は、その後もリティさんの協力のもと、カンボジアでの教育支援活動を広げてまいりました。2009年からは、アジア未来学校の支援に加え、活動の2つ目の柱となる小学校への不足教科書支援を始めました。このニュースレター61号では、リティさんの活動（後半）を紹介します。

■幼稚園プロジェクトでの苦勞

2008年に、日韓アジア基金はリティさんと協力して Russey Sanh 小学校（以下RS）に幼稚園を開設しました。小学校入学時の落ちこぼれ防止が大きな目的でした。当初教員はプノンペン市が手配してくれましたが、その後自前で手配することになり、女の先生を確保しました。法律では新しい先生（公務員）は1年間無給の試用期間が定められていました。（現在は6か月に短縮されました。）1年後に正式の先生（公務員）と認められれば全ての給与は政府から払い戻しされますが、彼女は試用期間にもお金が必要でしたので、リティさんは毎月10ドルを援助していました。しかし10ドルでは彼女のガソリン代にしかありませんでした。そして残念ながら最初の先生は1年で辞めていきました。2013年に Va Chantha 先生を雇いました。彼女は当初80ドルの月収を要求していましたが、リティさんやRS役員の説得に応じて65ドルで了解してくれました。65ドル捻出の内訳は、日韓アジア基金が50ドル、リティさんが10ドル、RS校長が5ドル、となっていました。

その後当会の財政状況悪化のため、幼稚園は残念ながら 2015 年に閉園しました。

■ Drinking Friends' Fund

今年の 1 月に発行した NL59 で、NFEC（当会が支援する非正規識字学校）卒業生の中学への進学状況を報告しました。その中で、父親が行方不明、母親は精神障



害となっ てしま い、経済的にどん底で仏塔などで暮らし、中学進学を諦めかけている、Chay Piseth 君を紹介しました。 Piseth 君は中学に進学し勉強を続けたいという強い希望を持っていましたので、リティさんは教育局に彼を貧困児童とみなし、中学に進学できるよう認可を求めてあげました。 Piseth 君は他の学生より 1 学年遅れていますが、今は 7 年生（中学 1 年）として通学しています。

リティさんは NFEC の Ya Sokhorn 先生と一緒に彼に制服を買い与え、一緒に学校に行く友達を紹介し、金銭援助をして彼の通学を支えています。しかし Piseth 君を支えるには月に 35～40 ドルが必要で、リ

ティさんの出せる金額では足りません。そこでリティさんは『Drinking Friends' Fund』と名付けた活動を昨年 12 月に思いつきました。

先ず、リティさんは職場の仲間や友人、近所の人々に、Piseth 君の経済状況を説明しました。そして『Drinking Friends' Fund』を提案しました。これは仲間と飲みに行く出費の一部（飲みに行く回数を減らしたり、飲み代を少し抑えたりして捻出）を Piseth 君の援助に充ててもらおうという活動です。

ファンドの協力者は、リティさんの職場の仲間、バイクの修理工、建設作業員や他の企業の社員等々、多様な人々です。リティさんは、賛同者全員と『誓約書』を取り交わしています。誓約書は単に Piseth 君を支援



するだけでなく、健康に注意して飲むことや、飲んだら運転しない事、等にも言及し、とても興味深い内容になっています。ファンドは実際には2月から動き出し、2月31ドル、3月は33ドル、4月27ドル、5月50ドル、6月は38ドル集まりました。Piseth君の成績は、クラス55人中7、8番で、今は6番を目指しています。リティさんは仲間がこのファンドを引き続き支援してくれることを願っています。今、リティさんはもう1人の、Piseth君と似た境遇の子供を援助したいと思っていますが、現在集まる金額では足りません。

■ リティさんからの謝辞

この記事の最後に、リティさんは何人かの方々に感謝を伝えることを希望されました。1人目は、RS元校長の Chum Chom 氏です。彼の支援がなければ教科書の購入や雇っている先生達との話し合いもできなかつたでしょう。今はリタイヤさ



れていますが、リティさんが困った時には相談に乗ってくれています。NFECの Ya Sokhorn 氏と Phal Sambath 氏にもたくさんの支援を受けています。Ya Sokhorn 氏は第9校 (Prekchrey 小学校)の校長をされており、NFECの設立者です。教室で使っているい

くつか机や黒板は彼の寄付によるものです。また今は Piseth 君を養子にして学校に通わせています。Phal Sambath さんは、当会が2003年に設立した非正規識字学校・アジア未来学校で、開校から閉校まで5年間教鞭を取っており、NFECでも、当会が支援を開始した2011年以降今日まで6年間教えています。(以上)

・・2回に渡って、リティさんの半生を紹介いたしました。日韓アジア基金の活動はリティさんをはじめ、カンボジアの多くの支援者の力で成り立っていることをあらためて思い知らされました。今後もカンボジアの子供達が少しでも良い教育が受けられるよう、しっかり支援していきたいと思っております。皆さまのご支援も宜しくお願いいたします。

ボランティアに参加して

学生 長内麻誉

私が日韓アジア基金を知ったきっかけは、中国留学中に知り合った、日韓アジア基金設立者の禹守根さんです。私が韓国語を話す事が出来る事を知り、禹さんが日韓アジア基金のお話をして下さいました。

私は高校生の頃から日中韓の関係に関心があり、私に何か出来る事はないかと考えていたので、日韓アジア基金を知り帰国後必ず活動に参加しようと思っていました。そして、帰国後今回のニュースレター発送作業のボランティアに参加する事にしました。

まず参加して驚いた事は、学生を中心とした幅広い年齢層の方がボランティアに参加している事、それからボランティアに参加している方々の動機や目的が様々である事です。実は参加する前には、同じ目的を持った方々だけが参加しているのではないかと勘違いしていました。しかし、そうでない方々も参加して下さいる事が一番意味がある事だと思いました。そんな参加背景が様々な他の参加者の方々を見て、まずは行動をする事が何よりも大事な事だと学びました。そして今回のボランティア活動を通し他の参加者の方々と協力して何かをする達成感を久しぶりに味わいました。



今回はニュースレターの発送作業と言う事で、手書きのメッセージを書きました。心を込めて自分で書くので、自分が活動に参加している実感が湧きます。人から人への支援、そして人から人への感謝がボランティアの魅力であり、意味であることをたくさん感じました。

メイン作業、支援者の皆様へのコメント書きです。

これからは、日韓アジア基金の活動に積極的に参加

して、基金の活動への理解を深めるだけでなく、活動の輪を広げて行けたらいいなと思いました。

そして、こうして今私がボランティアに参加出来るのは、発足から今日まで支援をして下さっている方々、大澤さん、その他ボランティアをされている方々のお

陰であり、感謝の気持ちと同時に私も皆さんのように基金の活動を引き継いで発展させて行くひとりになりたいと思いました。

他の外国の友達や日本の友達も呼んで、多くの人たちがお互いに対する偏見をなくし、そして活動の結果が一人でも多くのカンボジアの子供達が積極的に勉強する機会となれば良いなと思いました。

ニュースレター発送ボランティアに参加して

学生 匿名

私は今回初めて日韓アジア基金ニュースレター発送ボランティアに参加させていただきました。今回参加を決めたきっかけは、ボランティア情報サイトのアクティボにこちらのボランティア募集の記事を見つけたからです。一日だけ、しかも作業は半日で終わるということで気軽にできると思いました。

もともとは両親の勧め（というよりは半ば強制でしたが…）でボランティアを7つ以上しなければいけないということがあって、ノルマをこなさなければいけない、その一つとしてやるんだという気持ちの方が正直強かったのです。

暇ができたから少しでも社会貢献をしたいだとか、何か素晴らしい考えのもとで参加を決めたわけじゃなくて、淡々とボランティアをする、それだけのことだという風に申し込んだ時点では考えていました。

当日参加して、自己紹介の時になぜ今回参加を決めたのかをそれぞれ話したのですが、ボランティアが好きであるとか、経験として…などそれぞれの理由がしっかりしていて、私は内心少し恥ずかしく感じました。しかし作業を開始するときや作業中に色々な話を聞いてボランティアに参加することへの気持ちが変わりました！

参加者には高校生が多い日のようでしたが、他にも大学生や会社員の方もいて、私と同じ専門学校生の人はいませんでした。でも私と似たような状況（就職活動中）の人もいて親近感も湧きましたし、交流を持つことができたのも大変良かったです。ボランティアの動機としてはあまり良くないかなという気もしますが、何か出会いや交流を目当てに参加してみるといいのかもしれないかもしれません(笑)。作業が終わって、希望者だけではあります、スタッフの方々と参加者で美味しいインドカレーを食べながら色々なお話をして交流を深めることも出来ます。そんな部分があるのはこのボランティアならではないのでしょうか？

私は他の団体でもニュースレター発送などの事務ボランティアをやったことがあります、とてもアットホームな雰囲気の中で参加者の方との会話も楽しみながら気軽に参加できるボランティアはあまりないのではないかと思います。また、

日韓アジア基金では少し大変ではありますが、手書きのメッセージ部分を設けるようにして、支援者の方々への送るニュースレターを温かみのあるものにしていくというのが良いなあと感じました。

今回の参加のきっかけは親の勧めでしたが、とても楽しく良い時間を過ごせて本当に良かったと思っています。

また次回以降にお誘いいただいた際には、都合がつけばぜひ参加させていただけたらと思います。ありがとうございました！



総勢 18 名が参加しました。この人数で 155 通を 4 時間で発送します。

ニュースレター発送作業に携わって

学生 古信宏一

今回、日韓アジア基金のニュースレター発送作業のボランティアに初めて参加させて頂きました。ボランティア紹介のサイトで見つけ、国際性のある内容に興味があったので応募しました。

カンボジアの子どもたちに無償で教科書を提供していくという活動や、ビビンの会の理念にとっても感銘を受けました。今回はニュースレターの発送作業だったので、初めてのボランティアとしては難しくなく、また一緒に参加された方達と楽しく話しながら作業できたのでとても良かったと思いました。またスタッフの方が親切でスムーズに作業することができました。



資料の綴じ合わせ作業中

私は大学で公共政策を専攻しており、海外、特に発展途上国への無償資金協力や経済連携、NGO 団体の活動に関心があります。

発展途上国の状態を測るメジャーとして教育（識字率や進学率）があげられますが、これまで教科書を手にすることができない子どもたち、という視点で見たことはありませんでした。

しかし実際には、発展途上国においては政府が教科書を提供する財政力がないケースが少なくなく、日本を始めとする他国からの援助を受けていること、そしてそれが子どもたちにとってどれほど重要なことかを日韓アジア基金の活動を通して学びました。

この日韓アジア基金は韓国出身の方が提唱され、日本との協力により現在までの活動に至ると聞いています。また多くの方の支援があつてこそ一つ一つの活動が成り立っています。今回ご縁できたことをきっかけに自分の中でも、海外に目を向け、発展途上国に対してできることはないか、思索し実践していきたいと思っています。

私は今回のボランティアを通して築いた縁と、発展途上国への貢献をこれからも大切にして参りたいと思います。日韓アジア基金の活動は、年に4回、ニューズレターの発送作業だけでなく、アジアの学生との交流や、NGO 団体の大きなイベントへの参加もあると聞いています。是非これからも日韓アジア基金の活動に参加できたらと思います。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方
(敬称略・五十音順)

2017年1月7・8日 ニュースレター59号 印刷・発送作業

稲垣瑞恵・薄葉麻希子・亀山巴・キムドゥヒョン・金ユソン・桑本巖・斉藤乃章・
神宮沙紀・鈴木那津美・鈴木裕子・田崎美里・千葉まゆみ・西川裕貴・松浦宏水・
丸山芳彦・山口今日香・横山莉枝子・李建・李東祐・柳明姫 (20名)

2017年4月19日～2017年7月5日に会費・ご寄付を下された方 (敬称略・五十音順)

五十嵐 安雄	神戸 博子	越塚 忠巳	高橋 周孝	松井 ふみ子
大坪 玲子	菊池 貞子	小林 栄次郎	武之内 教男	松本 博一
長内 麻誉	菊池 博	坂口 博	中田 邦雄	丸山 健太
小原 勝子	金 喜淳	柴田 健次	平塚 千尋	谷池 教子
片岡 彩子	国重 純子	柴田 義之	堀川 泰義	山根 寛
				柳 明姫

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

郵便振替口座
支店名 ○一九(ゼロイチキョウ)店
口座番号 当座 00180-2-25153
口座名義 日韓アジア基金

- ・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。
- ・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(A B K)内
T e l : 090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX : 03-3946-7599 (A B K)
E-メール : jkaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP: <http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也